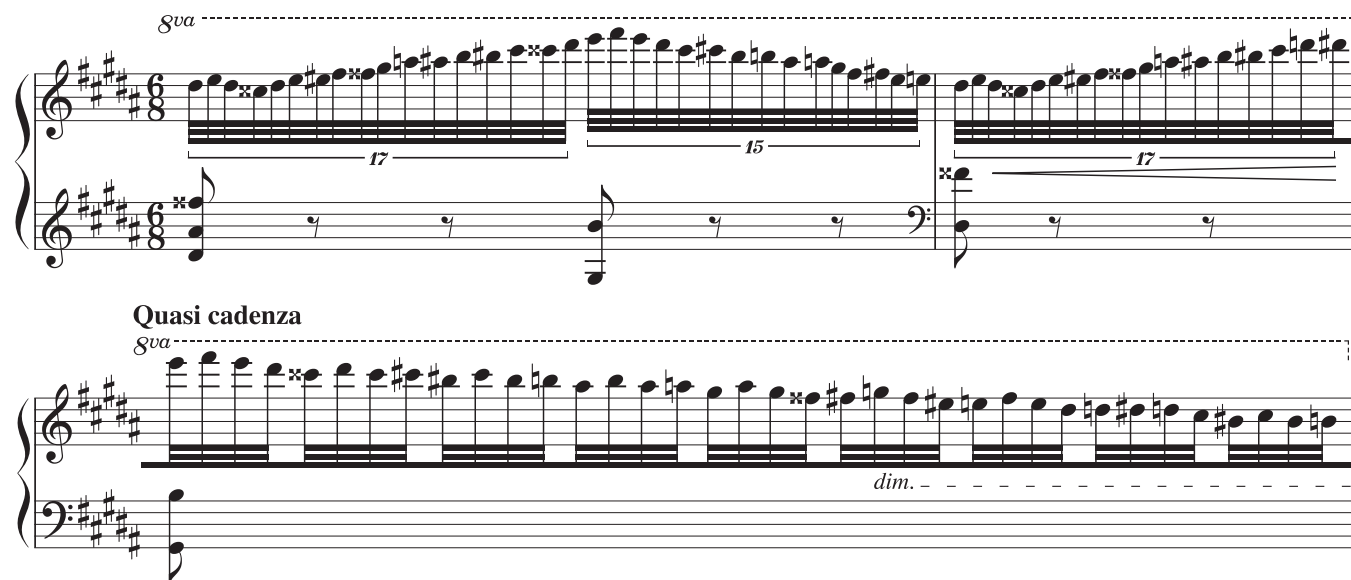


# ひしめく加線

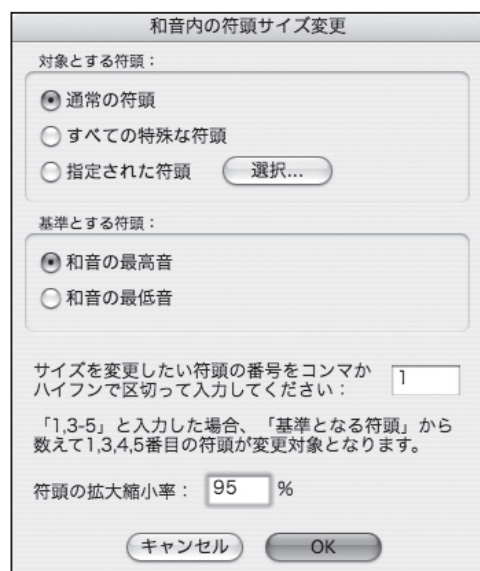


ごく最近の仕事の一部から今回の例を採りました。長くて難しいピアノ曲の一部ですが、こういった難曲は往々にして浄書屋にとっても難物になりがちです。多くの音符が一つの小節内にある時、そしてそれらの多くが加線や臨時記号を伴う時、どうやって接触を回避するかが大きな問題になるからです。特に加線がくっつく则可読性が著しく損なわれますので、何としてもそれだけは避けなくてはなりません。手作業ならその部分の加線だけを短くすることも出来るでしょうが、Finaleに加線設定の部分変更オプションはありません。一つの解決法として図形作成で白紙を作って貼付けて線の一部を隠す技術を紹介している本を見たことがあります。良いアイデアながら、マクロ機能と呼ばれるキー入力を使ったとしても非常に時間のかかる作業になります。

この仕事の際に出版社から紹介された欧州の老舗出版社による本曲の彫版楽譜をよく調べた結果、興味深いことに気づきました。わずかながら、符頭や臨時記号が小さくなっていったのです。もちろん加線も適切に短くなっていました。こう

いう時の為に小さ目のポンチセットを用意していたのかもしれませんが、うまい手があるものです。必ずしも好ましい方法ではないかもしれませんが、読みにくくしてしまうよりは遥かに良い選択かと思います。

これを Finale で実現することは可能です。サイズツールというのがあり、これを使えば音符とそれに付随するアイテム各種のサイズを個別変更することが出来ます。ただし、符尾をクリックすれば装飾音のように連桁等も含めた音符全体が縮小されてしまうので、符頭を正確に狙ってサイズ変更を掛けなければなりません。それでも臨時記号や加線など符頭の属性と見なされるアイテムも同じように縮小されますので、実に好都合です。ただ音符全体の縮小ならブロック編集ツールで一括操作できるのですが、これは符頭のみサイズ変更には使えません。譜例の2段目が通常サイズで、1段目が95%縮小の掛かった状態ですが、普通の操作では49回も符頭をクリックすることになります。効率を上げる手を次に考えたのですが、良い方法がありました。



これは Ver.2006 から搭載されるようになったプラグインで、これを使えば、ブロック編集ツールで一括編集するような操作を符頭にも適用出来ます。本来の目的は歌の楽譜によく見られるような、和音内の一部の音の符頭だけを小さくしようというのですが、本例のような単音に適用することも可能で、これにて一気に操作が早くなりました。

以前の記事でも紹介しましたが、レイアウト関連機能が革新的に強化された2005に続いて、2006ではMac版の画面表示の素晴らしい改善と共に、多くの新プラグインが付加されました。それらの使い方を研究して十分に理解した上で仕事に役立てることが出来れば、編集効率が少なくとも2~3倍以上は向上するでしょう。MacOSの8~9とFinale98や2000などの時代と違って、今ではプラグインがファイルやアプリケーションを壊すことはありません。残念ながら今の私に自分でプログラムを作る力はありませんが、工夫研究怠りなくして、次々と登場してくる新機能を使いこなしていくつもりです。 2007年7月 梅本雅弘